

開一小だより

臨時号

平成30年2月28日発行
練馬区立開進第一小学校
校長 石神 徹

平成29年度 学校評価のまとめ

練馬区立開進第一小学校長 石神 徹

12月に児童・保護者・地域の方々・教職員による学校評価（自己評価）を行い、その結果を基に次年度の方針・取り組みをまとめましたので、ご報告いたします。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

< 1 自己評価 >

< 成 果 >

- ・保護者・地域からは、評価項目①「教員は、授業をわかりやすく工夫して教えている」において、高い数値が見られた。昨年度と比べ、0.08ポイント上昇している。目の前の児童の実態をもとに教材研究を行い、児童一人一人に即した指導の工夫をしている教師の努力をご理解いただいた結果である。また、評価項目④「学校は、子どもについて、相談・問題に適切に対処している」について、昨年度に比べ0.09ポイント上昇している。担任・専科教員はもとより、ひまわり相談室、学校と家庭の連携支援員等の連携については、今後とも児童一人一人の心理的な状況把握に努め、安心して学校に送り出せる学校づくりに引き続き、努力していく。評価項目⑤の「学校は、授業参観、行事、通信等による公開や発信及び地域との連携を図って開かれた学校づくりに努めている」について、昨年度に比べ0.07ポイント上昇している。各行事、授業公開等において、保護者・地域によるアンケートの実施により、9割が肯定的に記述していることも、本校の取り組み、また、発信が地域・保護者の方にご理解をいただけていると捉えることができる。評価項目⑦「算数習熟度別学習は、子どもに適した内容・進度のため、子どもが意欲的で取り組みやすい」に付いては、習熟度別学習3年目になり、昨年度に比べ、0.16ポイント上昇した。学年によっては、少人数の指導になりにくい現状もあるが、個に応じた能力に応じた指導を今後とも続けていく。
- ・児童からの評価においては、評価項目⑥「自分から進んで読書をしていますか」の項目で、昨年度に比べ、0.02ポイント上昇した。読書旬間の取り組みや図書館支援員の指導から読書に対する児童一人一人の意識の向上が伺える。
- ・教員は、評価項目②「児童健康、安全」③の「いじめ・不登校防止」、⑤の「学校公開や行事の公開、発信」について、高い評価をしている。また、評価項目①「わかりやすい授業」では0.05ポイント、評価項目⑤「授業参観・行事の公開や発信、地域との連携」についても昨年度に比べ、上昇していることは成果である。

< 課 題 >

- ・回収率を見ると、学年ごとには、6年生が48%、5年生が49%、4年生61%、3年生が84%、2年生が88%、1年生が94%となり全体では、71%であった。次年度の学校教育の改善を図るためには、保護者の方からのご意見、評価を大切にしたいと考えている。次年度には、保護者のご意見も反映しながらともに開一の子どもを育てるという意識の共有を図っていくことが必要である。
- ・評価項目②の「教員は子どもが健康・安全に生活が送れるよう指導している」では、教員が

3.69 ポイントと、高い評価をしているのに対し、保護者は昨年度に比べても 0.13 ポイント評価が下がっている。日々の安全管理を行い、児童が安心して学校生活を送れるよう改善を図っていく。③の「教員は、いじめ・不登校の防止に努めている」について、教員は、3.72 ポイントと高い評価をしているのに対し、保護者は、3.36 ポイントに留まっている。学校は、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解決に今後一層の努力が必要である。各担任との連絡帳や電話による連絡、また、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員を中心とした教育相談体制をさらに機能、向上させ、連携を図り、解決していく。算数習熟度別の指導について、教師のポイントが顕著に低く、教師の指導の工夫の改善の必要性を感じる。

・児童による評価項目⑤「自分の考えを進んで発表する」について、ポイントが低い。(H26・27・28=3.05) どの教科、領域の学習においても、1 時間ごとの学習で自分の考えがもてるようにする活動、発表した際に友達の考えを受け止める学級づくりに、今後も取組を継続していく。

○根拠となる資料

ア) 保護者、地域、教職員の評価結果

	【教員の指導について】	保護者	地域	教職員
①	教員は授業をわかりやすく工夫して教えている。	3.50	4	3.48
②	教員は子どもが健康・安全に生活が送れるよう指導している。	3.30	4	3.69
③	教員は、いじめ・不登校の防止に努めている。	3.36	4	3.72
	【学校について】	保護者	地域	教職員
④	学校は、子どもについて相談・問題に適切に対処している。	3.32	4	3.59
⑤	学校は、授業参観や行事、通信等による公開や発信及び地域との連携を図って開かれた学校づくりに努めている。	3.65	4	3.72
⑥	学校は教室や廊下、特別教室などの環境整備に努めている。	3.40	4	3.24
⑦	算数習熟度別学習は、子供に適した内容・進度のため、子供が意欲的に取り組みやすい。	3.43	4	2.96

イ) 児童による評価結果

	評価項目	昨年度	今年度
①	学校は楽しいですか。	3.46	3.44
②	授業は、わかりやすいですか。	3.49	3.44
③	学校には、こまったときに相談できる先生や友達がいますか。	3.53	3.48
④	「開一小のよい子の生活」を守っていますか。	3.39	3.31
⑤	自分の意見や考えを、進んで発表していますか。	3.05	3.02
⑥	自分から進んで読書をしていますか。	3.42	3.44
⑦	体を動かす遊びや運動を進んでしていますか。	3.52	3.51
⑧	(3～年生が回答) 算数の学習は、習熟度別で勉強しやすいですか。	3.28	3.20

※ 表中の数値について

A : あてはまる (4点)

B : ややあてはまる (3点)

C : あまりあてはまらない (2点)

D : まったくあてはまらない (1点)

E : わからない (点なし)

として総合点を出し、総合点÷(総数-Eの数)を計算して平均値とした

この他、家庭学習と、挨拶に特化した児童アンケートを実施し、以下のような結果が見られた。

評価項目	低学年	中学年	高学年
おうちでの勉強時間は、一日どれくらいですか。			
おうちでは ほとんどべんきょうしない。	4%	6%	4%
だいたい20分よりすくないくらい。	16%	9%	15%
40分よりすくないくらい。	25%	19%	16%
1時間より少ないくらい。	18%	17%	7%
1時間位。	21%	22%	19%
1時間をこえてもっと勉強している。	16%	27%	39%

評価項目	低学年	中学年	高学年
あいさつはどれくらいできていますか。			
じぶんから すすんで あいさつをしている。	59%	51%	22%
じぶんから まあまあ あいさつをしている。	29%	38%	63%
じぶんから あいさつをすることは あまりおおくない。	10%	9%	13%
じぶんから あいさつすることは ほとんどない。	2%	2%	2%

- ・家庭学習については、年度当初の保護者会で説明をしている。量の確保から、質の充実を目指し、授業における興味・関心は、「学び」の質を高め、次への学習の意欲付けにつながる。家庭学習については、児童の自己評価では、低学年が80%、中学年が65%、高学年が60%と定着しているとはいえない。学力向上に向けた指導を今後も継続して行っていく。

家庭学習の充実を図るための方向性を示す『家庭学習の虎の巻（平成30年2月）』を学校ホームページに掲載しました。ご参照ください。

- ・あいさつは、本校の生活指導の重点目標の一つとして、児童に呼びかけ、また、4月、1月に重点化した取組を行っている。また、代表委員会を中心として、開進第一中学校の生徒会とともに、毎月1回、ふれあい月間に合わせ、4年以上が各学期に1回ずつあいさつ運動を行っている。PTA役員による、あいさつ運動も第二土曜日の下校時に積極的に行っている。進んであいさつをしている児童は、低学年は、60%、中学年は50%、高学年が、40%と、主体的にあいさつをする児童が少ない。次年度は、さらに「にっこりわらってあいさつ」「相手に聞こえる声であいさつ」ができるよう、指導の徹底を図っていく。

※ 調査期間及び集計総数（回収率）

保護者アンケート	平成29年11月27日～12月4日	445枚(71%) (前年度69.2%)
学校評議員アンケート	平成29年11月27日～12月8日	4枚(66%) (前年度20%)
教職員アンケート	平成29年12月7日～12月21日	29枚(100%) (前年度100%)
児童アンケート	平成29年11月27日～12月1日	619枚(99.1%) (前年度98.8%)

学校関係者評価＞

(1) 成果

- ・あいさつがよくできている。校外で会った際のあいさつもよくできている。
- ・学校と地域の連携推進事業の積極的な取組が感じられる。来年度も、ぜひ、地域を活用した活動を行ってほしい。

(2) 課題

- ・高学年で自己評価の低い子どもがいる。自身をもたせたい。
- ・あいさつの重点化は引き続き行ってほしい。
- ・放課後の遊び方等、生活指導上の問題が続いている。

(3) 改善策

- ・あいさつは、大人が手本を示すことで子どもたちが実践する。引き続き、大人のあいさつは意識して取り組む。
- ・放課後の過ごし方は、地域でも見守っていただく。

＜ 3 次年度の学校改善に向けた見解＞

- ・様々な本校の教育課題をテーマとした第二土曜日の講演会は、保護者の方に、発信するとともに、次年度への問題提起をすることができた。
来年度は、参観の保護者をさらに増やし、本校の取組にご理解をいただくよう、計画していく。
- ・家庭学習の取組は、継続されるようになってきた。今後も、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、量の確保から、質の充実を目指す授業改善を図っていく。
- ・算数の習熟度別学習・TT 指導等を進め、年間 3 回の東京ベーシックドリルの結果は、徐々にではあるが、成果を見せてきている。来年度も、個に応じた指導を徹底し、「分かる授業」「楽しい授業」「もっと学習を進めたい授業」を目指す。
- ・児童が安心して充実した学校生活を送れるようにすることが、学校の使命である。そのために、アンケート・聞き取り・面談などの様々な方法で、いじめや児童の心の問題などを毎月くみ取っていく。また、特別支援コーディネーターを中心として組織的に対応し、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員及び関係諸機関と連携し、迅速な解決を目指す。特に、「いじめや体罰は絶対に許さない」という強い意志で取り組む。
- ・特別支援教室「あおば」が開室し、1 年が経過した。今後は、全教室でも、ユニバーサルデザインを旨とした指導方法を工夫し、すべての子にとって参加しやすい学校・学級をつくる。
- ・今後もアンケートや保護者会等での聞き取りから得られた意見などを真摯に受け止め、保護者・地域からの学校に対する期待に応えていく。また、学校だよりやホームページ等で日々の教育活動の様子を発信していく。いじめ、不登校等の教育課題に対しては、関係機関と連携し、迅速な解決を目指す。